

## 6.10.2 予測

### 1) 工事の実施

#### (1) 予測概要

調査の結果、調査範囲では魚類7種、甲殻類25種、貝類29種、水生昆虫類12種、藻類1種、水生植物3種、合計77種の重要な種の生息及び生育を確認した。

工事の実施に伴い、造成等の施工による一時的な影響として、土地の改変による個体の消失及び機械処理水による生息・生育環境の変化が考えられることから、これらが及ぼす重要な種の生息・生育状況の変化を表-6.10.2(1)に示すとおり予測した。

表-6.10.2(1) 河川水生生物に係る予測の概要（工事の実施）

項目	内容
予測項目	重要な種の生息・生育状況の変化
影響要因	造成等の施工による一時的な影響
予測地点・予測範囲	重要な種の分布及び生息・生育環境と施工計画を考慮し、事業の実施による環境影響を的確に判断できる範囲として、調査範囲と同範囲とした。
予測対象時期	個々の重要な種の分布又は生息・生育環境に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。
予測手法	重要な種の事業実施区域周辺の利用状況と環境変化との関連から、生態的特性を踏まえて予測した。